

卒業生(時)アンケート結果

学修成果等に係る自己評価(概況)

平成30年度の本学卒業生(時)を対象に、「学修成果等に係る自己評価」に関するアンケート調査を実施したところ、以下のような結果となりました。

●調査回答率について

大学 158名/162名中 97.5%

短大 149名/150名中 99.3%

「在学中に向上したと思う知識や技能」について

●学修成果に満足しているか

すべての学部学科で90%を超える数値で、本学の学修支援体制について、一定の評価結果が示されていました。

●一般教養について

大学全体としては70%~80%程度の数値で、各学部学科のディプロマポリシーに教養教育に力を入れることを掲げていることから、90%以上の数値を目標に、今一度、教養教育に関する自己点検の必要性が問われる結果となりました。

●専門分野の知識・技能について

免許・資格取得をめざす保健医療学部や短大の幼児教育・保育科では高い数値となりました。一方で、経営学部や短大キャリアプランニング科は、専門分野の知識・技能が向上したという実感が得られていない学生が相当数見られました。この点については、今後の教育改革において、専門性を高める教育への転換を意識させる結果となりました。

●分析力・問題解決力について

大学全体で60%に満たない数値となっており、昨今の社会で求められる能力の一つである「分析力・問題解決力」の向上をめざした授業科目等での工夫が求められる結果となりました。

●専門的に考える力について

大学全体では50%前後の数値となりました。専門教育過程において、これまで以上に専門的知識を応用していく力を養う授業科目等の工夫が求められる結果となりました。

●情報機器の利活用力について

本学は、これまで情報活用力の向上をめざす教育に力を入れてきており、教育面だけでなく施設面でも充実を図ってきました。しかしながら、大学全体として50%程度と予想より低い数値となりました。従って、今後は情報機器の利活用力向上をさらに実感できる工夫が必要であることを認識させられる結果となりました。

●協調性について

大学全体として70%程度の数値となりました。本学は、これまでも地域に密着した大学をめざしており、地域と連携した事業の展開に努めております。学生一人一人には、学生生活の様々の過程において、協調性を育むことを意図しており、引き続き、こうした地域と蜜に連携した事業展開の中で協調性をいかに育むかが求められる結果となりました。

●リーダーシップについて

大学全体として40%に満たない数値となりました。本学としては、リーダーとしての資質、能力や統率力等の向上を意識した教育内容の充実が急務であることがわかる結果となりました。

●人間関係を構築する力について

大学全体として60%程度の数値となりました。本学としては、引き続き、プロジェクト活動などを通じて、人間関係を構築することの大切さを感じることで教育内容の充実が求められる結果となりました。

●コミュニケーション力について

大学全体では約70%という数値となりました。本学は、普段から一人一人の学生が成功体験や達成体験を実感できるような教育を心掛けてきており、こうした教育の成果が見られる結果となりました。

●プレゼンテーション力について

大学全体では45%程度の数値となりました。本学は、ゼミナール活動やプロジェクト活動等を通じて、プレゼンテーション(発表)する機会の確保に努めてきました。しかしながら、必ずしもプレゼンテーション力が向上したという実感につながっていない結果となっており、引き続き、発表の機会を増やすと同時に適切な評価や指導できるような体制が求められる結果となりました。

●自己管理について

大学全体としては60%程度の数値となりました。本学は、免許・資格に直結する学部学

科が多く、日頃から計画的に学修することが求められています。引き続き、予習復習をはじめとして、確実に学力の定着が図れるように指導していくことが求められる結果となりました。

「勉学環境」及び「キャンパス・通学環境」について

全体を通じて、「満足」「やや満足」と回答した数を集計すると、半数を超える結果が得られており、大学の環境整備への取り組みが一定の評価を得ていることがわかりました。しかしながら、一部、学生食堂等の厚生施設に関する満足度の低い結果も散見され、学生数に対する厚生施設の充実に向けた取り組みについて、検討の余地があることを示す結果となりました。

最後に、このアンケート調査に協力いただきました卒業生の皆さんに深く感謝の意を表します。

以上
IR室